

文書分類番号	00	09	03	002	永 年	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議 長	副議長	局 長	次 長	副主幹	担 当	担 当	担 当	担 当	文書取扱主任

第3回 経 済 建 設 常 任 委 員 会 会 議 録

開催年月日		平成 23 年 8 月 3 日（水曜日）		開会 13 時 30 分		閉会 16 時 40 分	
開催場所		第三委員会室					
出席委員		山口、山本、坂井、小野、三上、窪之内				事務局	中嶋事務局長
		議長、委員外議員～木下					菊井次長
欠席委員		なし					原田主事
説明員		別紙のとおり		議 件		別紙のとおり	
議 事 の 概 要	○休憩中、4 月 1 日付け及び 7 月 1 日付け人事異動に伴う主査職以上の紹介を行った。						
	1. 所管からの報告事項について						
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。						
	○ 新滝川市活力再生プラン平成 22 年度実績報告について（総括説明）						
	(1) 新滝川市活力再生プラン平成 22 年度実績報告について						
	(2) 株式会社滝川振興公社第 49 回定時株主総会等の開催結果について						
	(3) 中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告について						
	(4) 高校生のための就職支援セミナーの開催結果について						
	(5) スカイスポーツイベント「サマースカイフェスタ 2011」の開催結果について						
	(6) 「食によるまちづくりフォーラム 2011」の開催について						
	(7) 滝川駅前再開発ビル活性化ビジョン策定事業の進捗状況について						
	(8) 新滝川市活力再生プラン平成 22 年度実績報告について						
	(9) 株式会社滝川グリーンズ定時株主総会の開催結果について						
	(10) 株主会社滝川農業開発公社株主総会の開催結果について						
	(11) 新滝川市活力再生プラン平成 22 年度実績報告について						
	(12) 建設部工事発注状況について						
	(13) 深沢川の治水に係る現況調査検討委託業務について						
	2. その他について						
道外視察の日程を 10 月 17 日から 20 日までと決定し、調査事項として 6 次産業と企業誘致についての案が出された。そのほかの案があれば事務局へ報告することに決定した。							
3. 次回委員会の日程について							
正副委員長に一任することに決定した。							
上 記 記 載 の と お り 相 違 い ない。 経 済 建 設 常 任 委 員 長 山 口 清 悦 印							

平成23年8月1日

滝川市議会議長 水 口 典 一 様

滝川市長 前 田 康 吉

経済建設常任委員会への説明員の出席について

平成23年7月14日付け滝議第63号で通知のありました経済建設常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

総務部長	山 崎 猛
総務部参事	居 林 俊 男
総務部財政課長	高 橋 一 美
総務部財政課副主幹	堀 勝 一
総務部財政課副主幹	景 由 隆 寛
総務部行政経営課長	松 澤 公 和
総務部行政経営課主査	須 見 公実子
経済部長	五十嵐 千夏雄
経済部参事	千 田 史 朗
経済部商工観光課長	長 瀬 文 敬
経済部商工観光課主幹	日 口 裕 二
経済部商工観光課主査	青 木 康 男
経済部商工観光課産業観光振興室長	浦 川 学 央
経済部商工観光課産業観光振興室副主幹	諏 佐 孝
経済部商工観光課駅周辺整備室副主幹	加 地 幸 治
農政部長	若 山 重 樹
農政部次長	中 島 隆 宏
農政部参事	多 田 幸 秀
農政部農政課副主幹	阪 本 康 雅
農政部農政課主任主事	山 本 健 裕
農政部農政課営農振興室長	新 井 敏 幸
建設部長	大 平 正 一
建設部技監	三 谷 文 彰
建設部土木課長	深 瀬 文 彦
建設部土木課副主幹	尾 崎 敦
建設部土木課都市計画室長	高 瀬 慎二郎
建設部土木課都市計画室副主幹	湯 浅 芳 和

建設部土木課都市計画室副主幹
建設部建築住宅課主幹

山 崎 智 弘
伊 藤 和 博

(総務部総務課総務グループ)

第3回 経 済 建 設 常 任 委 員 会

H23. 8. 3 (水) 13:30～
第 三 委 員 会 室

○開 会

○委員長挨拶（委員動静）

○休憩～4月1日付け及び7月1日付け人事異動に伴う職員紹介

1. 所管からの報告事項について

○新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について（総括説明） （資料）総 務 部

《経済部》

- （1）新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について （資料）経 済 部
- （2）株式会社滝川振興公社第49回定時株主総会等の開催結果について （資料）商 工 観 光 課
- （3）中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告について （資料）商 工 観 光 課
- （4）高校生のための就職支援セミナーの開催結果について （資料）商 工 観 光 課
- （5）スカイスポーツイベント「サマースカイフェスタ2011」の開催結果について （資料）商 工 観 光 課
- （6）「食によるまちづくりフォーラム2011」の開催について （資料）産業観光振興室
- （7）滝川駅前再開発ビル活性化ビジョン策定事業の進捗状況について （資料）駅周辺整備室

《農政部》

- （8）新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について （資料）農 政 部
- （9）株式会社滝川グリーنز定時株主総会の開催結果について （資料）農 政 課
- （10）株式会社滝川農業開発公社株主総会の開催結果について （資料）農 政 課

《建設部》

- （11）新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について （資料）建 設 部
- （12）建設部工事発注状況について （資料）土 木 課
- （13）深沢川の治水に係る現況調査検討委託業務について （資料）都 市 計 画 室

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

○閉 会

第3回 経済建設常任委員会

H23. 8. 3(水) 13:30～

第 三 委 員 会 室

開 会 13:30

委 員 長

委員動静報告

全員出席。議長出席。委員外議員～木下。プレス空知及び北海道新聞の傍聴を許可する。ここで休憩し、人事異動に伴う職員紹介を行う。

休 憩 13:32

(4月1日付け及び7月1日付け人事異動に伴う職員紹介)

再 開 13:41

委 員 長

休憩前に引き続き会議を再開する。

1. 所管からの報告事項について

委 員 長

新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告の総括説明について、総務部より説明願う。

○新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について（総括説明）

山崎部長

(別紙資料に基づき説明する。)

委 員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

① 23年度において再検討が必要な項目等が出てくると説明があったが、相対的な観点から言ってどういった点についてそうした再検討なりが必要となってくるのか。またその再検討した結果、23年度でタッグ計画が終わるのでその後、次年度に向けて新たな計画をつくっていくという形で反映させるというふうに考えているのか。検討項目についてはまだ検討している最中で今言える状態ではないのかどうか伺う。

② 計画の段階でP8の第三セクターの関係だが、個別の項目のところには結果が載っているが、農業開発公社について表も含めて総括に載っていない。清算完了したのは23年だが22年度中に問題の発覚があったわけなので総括的な中で触れておくべきだと思う。中身について触れなくてもこの相対的な表から抜けるというのは違うのではないかと感じるが、この辺について何か検討した結果そのように清算、解散ということになったから個別の表には載っているが相対的な表から抜いたということなのかについて伺う。

山崎部長

① 24年度以降の新たな計画の部分であるが、委員の言われるとおりでたいま検討中である。今市民会議等含めて総合計画についても詰めている段階である。そちらとの関係、それに全部あるいは一部を含めるということも視点の中にあるので、そういったことの中で新タッグ計画が策定されるべきかどうかということ判断していくことになるかと思う。総括的な中での検討課題というものは大きな時代の流れの中で、今交付税もどうなるかという状況では検討という注視していく必要があると思うが、新タッグ計画はもともとこういった具体的なものをきちんとやっていく計画であるのでどういう部分が不十分だったか、積極的にすべきかという部分は個別の中で各部からの説明があるかと考えているので理解いただきたい。

景由副主幹

② 三セクの関係であるが、農業開発公社については市からの貸付金は今まででもそうだったが一切ないという状況である。損失補償による借入は今まで7,000万円と少しあったが、それについては健全化法の将来負担比率で補足で

きるという部分である。それとは別に損失補償ではない市の貸付金については健全化法の将来負担比率では補足できないので、市としては独自に市からの貸付金についてを一つの指標にしようということでの新タッグ計画に載せている部分であったので、そういった観点から損失補償だけの農業開発公社がなくなったということで除外させていただいている。

委員 長

他に質疑はあるか。(なし) この件については報告済みとする。休憩する。

休 憩 13:55

再 開 13:56

委員 長

休憩前に引き続き会議を再開する。(1)について説明願う。

(1) 新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について

(別紙資料に基づき説明する。)

五十嵐部長

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

① P23、どうぶつらんどについてであるが、報告では8月末までに引き受けの状況がはっきりするということだったが、これまでの状況でいえばサルなど危険動物の譲渡は難しいとずっと言われていた。今年度中に大型動物が全部引き取られるという見通しというのはなかなか難しいのではないかと私は考えている。そうしたときに大型動物を譲渡した後の廃止ということを考えているわけであるから、サルだけでも残った場合にはどうぶつらんどとしてどういう形でやっていくのか。今大型動物と言われているのはラマとかサルだけになってしまったのか、現状と今後の運営も含めた見通しについて伺う。

② ねんりんピックでいえば年度だけのものであり、ここで見ると行刑施設の誘致のことであるが、国の動きを見ても実際には新たな行刑施設の建設という動きの情報は入ってこないという状況の中で行刑施設誘致の期成会みたいなものをつくっていて、5万6,000円という活動費で一定の事業をやっているのだと思うが、5万6,000円を出して12万円の効果が出ているということだが、一定の国の動きができるまでストックしたということでの12万円という数字なのかを伺いたい。

③ P71、振興公社の関係であるが、振興公社独自で借入返済を減らすための見えるような削減があったというふうには今の報告を聞いていても余り感じない。実際にはパーキングビルとの関係や繰り上げ返済というのがあったが、國學院には学生がふえてきてそういう振興公社が経営していたところの貸部屋は今満杯になっていると思うが、何となくずるずるとこれだけの大きな金額を縮減すると言いながら目立った縮減になってない最大のところはどこにあるのか説明を伺う。

浦川室長

① 8月末にはっきりしたいという説明をしている。昨年の調査の過程の中で比較的前向きにとらえてくれている施設が4つほどある。そのうち3つの施設は空知管内にあり、今までも動物のやりとりをしていた実績もあり、3つほど回ってきたが比較的譲渡に前向きにとらえていただけている。今いるサルは片腕がなく一頭だけで、引き取りはかなり難しいのではないかと想定していたが、検討してみると言ってくれているところが2施設ある。受け入れる側の状況により群れで暮らすので群れにすると多分問題が生じるので、個別で飼える施設があるところになると思うが、検討してもらえている。遠くの施設、函館まで行けないが、函館のほうは郵送でアンケートを8月末までにお願ひしようと思っている。思っている以上に動物は受け取っていただけるのかなという感触を

持っている。それと大型動物で今考えているのはサルとラマということで、ラマについても引き受けてもいいと言ってくれているところもあるので、何とか道筋がつけられるかと思う。その上でも当然動物が残る可能性はあるが、今のよう施設は必要がないと思うので、行く行くは施設を小さくしていきたいし、公園条例の中で有料施設としてどうぶつらんどという定義がされているので改正して、施設が残ったとしても動物は飼わなければならないので無料で見れるような環境にしていかなければならないと思っている。予算区分も今観光費で持っているが普通の公園管理費の中でその管理費を見ていただくようなことになるというふうに想定はしていたが、比較的動物の譲渡がうまく進みそうだという感触である。

② 今挙げている効果額というのは年間 12 万円ほどの負担金を結果的に活動していないということで支出していないので 12 万円という効果になっている。行刑施設の期成会についてであるが、現実国の状況は委員の言われた状況のとおりであるので、期成会は今年度で解散するという方向で今検討している。改めて総会は開かないが書面総会というような形で夏秋ごろに解散したいというふうに考えている。

五十嵐部長

③ 振興公社自体の経営改革を策定しているが、この方針としてはまず不採算部門を切り捨てるということで今現在黒字のゴルフ場の経営を中心に学生会館等の管理運営、そういったものを行って黒字体質にして市の貸付金を減少していくというような方針を立てている。それに絡み公社独自の改革もこれまでも行っており、まず本社については商工会議所の隣のビルからゴルフハウスのほうに移転をして経費節減を図っている。また、ゴルフ場の収支改善に取り組み、利用者の増にも一生懸命やっているところである。また、賃貸部門のほうであるが、これについても空き室の対策強化ということで営業活動を展開してPRに努めているところである。公社自身もそういったさまざまな改善に取り組んでいる状況であり、市のほうについても公社の経営改革計画に基づいた支援計画ということで、市の政策に基づいて購入してもらったものについては買い戻すというようなことを行って公社の自立を支援していくような体制で今行っているところである。

窪之内

① 振興公社の関係で公社自身の経営改革と市との協力もある中で、計画の中で言えば健全経営また貸付がゼロにできるかどうかを含めてそういう見通的なことまでが 10 年後に、一時何年かで健全経営になると言っていた時期があったと思うが、そこまでは見えてこない計画なのかどうか伺う。

② 滝川市経済の活性化ということで、畜産試験場の跡地計画等も出されているが、ここやいろんな地域の経済の活性化にも重なってくると思うが、こういう事業を進めていく上でアドバイザー的な人材を配置しているのではないかとこの話も聞こえてきたことがある。市としてそうしたアドバイザー的な人を任命していることはないのかどうかを伺う。

五十嵐部長

① 一応公社の策定した経営改革計画には市の貸付金については第 78 営業年度、平成 52 年に市の貸付金を解消するという計画をつくっている。

② 畜産試験場跡地利用計画の関係であるが、7 月 1 日の組織改革から農政部のほうに所管がえになったが、それまで経済部でやってきた中では、特にアドバイザー的な人材を配置していたことはない。

委員長

他に質疑はあるか。(なし)(1)は報告済みとする。(2)について説明願う。

五十嵐部長
委員 長

(2) 株式会社滝川振興公社第 49 回定時株主総会等の開催結果について

(別紙資料に基づき説明する。)

説明が終わった。質疑はあるか。(なし) (2) は報告済みとする。(3) について説明願う。

(3) 中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告について

(別紙資料に基づき説明する。)

長瀬課長
委員 長
坂 井

説明が終わった。質疑はあるか。

空き店舗が年々ふえていって目標の 30 店舗に及ばないだろうという見込みの報告だと思うが、今後の対策というところで具体的に空き店舗をふやさないために政策はあるのか。通行量をふやしたり、居住人口をふやしたりということも当然大切だと思うが、例えばプレス空知に載っていたかと思うが、最近個々のお店に対して、高齢化による後継者がいないために経営としてはそんなに悪くはないけれどもやむを得ず閉めてしまうという店に対して、どういう方法かはわからないが、例えば全国的に情報を発信して職業に就いていない方や将来独立したいという方を募って空き店舗を一つでもつぶさないようにするという対策も必要であると思う。そういったところでの市として具体的な対策があるのかどうかを伺う。

長瀬課長

6 月の補正でアーケード対策の部分も含めて中心市街地活性化協議会のほうに負担金を支出した。それも含めて今後新規出店に向けて援助の分を含めて考えていきたいというのがまず一点。そして事業承継という問題かと思うが随所的な面では国も今進めているし、それについては情報提携も含めて相談窓口の部分も検討していきたいと考えている。これについては市商連を初め商工会議所、市も含め今後何らかの対策を考えていきたい。

坂 井

まちづくりセンターというのが第一パーキングの後に予定されていると思うが、今現在まちぷらが商店街にある。この、まちづくりセンターとまちぷらとの違いや、具体的にこれをつくることによってどういった人をここに呼び込むことなど、商店街の活性化につなげていこうという意図が見えない。ちょっとダブっているところがあるのではないかというふうに思うのでその辺を具体的に、まちづくりセンターというのはどういったことをやっていくのかということをお教えいただきたい。

千田参事

まちづくりセンターの機能というのは多分厚生常任委員会でも報告されたと思うが、住民自治を主体とする場所だというふうに聞いている。ただ先ほど委員の言われた商店街にどう結びつくかという関係であるが、逆に商店街があ場所をどう使っていくかということが大事だと思っている。できたからお客が来るのではなくて、逆に商店街のほうから提案していくであるとか、例えばそこを宅配サービスの場所にしてほしいとか、そういう部分を商店街のほうからどんどん提案していただくということが大事であると思っている。

坂 井

こういうふうなものをするというのはまだ完全に決まっているわけではなくて、今後商店街としてもこういうふうやってほしい、商店街としてこういうふうまちづくりセンターを活用したいというような要望があればそれに柔軟に応じる構えはあるということによろしいか。

千田参事

おととい、厚生常任委員会で報告されていると思うが、市民の活動の場ということで市民が集えるということが柱だと思う。商店街であるとか町内会の方であるとかどういうふうに使っていただくという利用方法については利用者協

議会みたいなものが立ち上がっていると聞いている。その中で商店街の方がこういうことをやりたいということがあれば柔軟に対応していただけるような状況には今あると思う。

委員長
窪之内

他に質疑はあるか。

「た・べる」と「need it」ができたのは同じ時期だと思うが、「た・べる」が失敗したと言えるのかどうか、その辺の評価をどうしているのかというのが報告されていないので、失敗したという位置づけであればなぜ失敗したのか。それとその後の活用が今されているが、これとチャレンジショップの中に今新たな機能を持たせて高齢者が入ってトイレも使用できるようになったと思うが、「need it」のほうはまだやっているし、それなりのことがあると思うが、「た・べる」は結果的になくなって違うものに変わっていった。もともとの目標は何であって、そこがなくなったのは何なのか、それにかわるものとしてだめになった教訓から新しいものをつくったと思うが、これは中心市街地の活性化とかかわっている事業だったと思うので、この辺について伺う。

長瀬課長

「た・べる」のことについては、くつろぎどころという部分の中での整理をさせてもらい事業展開をしていた。くつろぎどころと食堂部門ということでやっていたが、食堂部分の飲食のところが不振に陥ったということでの整理の中から、くつろぎどころは残して現在介護福祉課のほうで高齢者サロンの「まちぶら」ということで機能は残したまま飲食部分撤退ということになっている。チャレンジショップのトイレの使用であるが、現在チャレンジショップのほうは3店入店していて、バリアフリーのトイレになっていることから地域公共交通のバスの停留所ということもあり、バス停の待合の方、それとバリアフリーのトイレということも両方兼ね合わせて利用されているという状況である。

窪之内

くつろぎどころ「た・べる」は議員会でも1回使ったが、飲食が不振になったというのは不振になって当たり前なのかと思う。正直、価格と提供している物、サービスに問題があったから食事部門が不振になったのかと思う。不振になったから切り捨てて、それで高齢者のくつろぎという点だけでいいのか。食べるところで言えば周りにあるからその部門は切り捨てたのだとしたら、これをやれと言うわけではないが、まちなかのデイ・サービスなり、もっと違うことに利用すべきなのかと思う。だめになったからといって高齢者対応の施設にしたということでは能がなさ過ぎるのかと思う。もっと全体としての活用計画が必要だったのではないかと思う。今後、こういう動向を見ながら、また有効な活用方法についてこれから検討していこうと考えているのかどうか伺う。

千田参事

中心市街地活性化協議会の活性化委員会というところでまとめて市商連にやっていただき、どうしても飲食部分がうまくいかないということで飲食部分をクローズし、くつろぎどころにした。今言われていたデイ・サービス機能はどうだという話は私どもが決めるというのはなかなか難しいものであるから、そういう情報があつたということは市商連に伝えるし、市商連の事務局長もいるのでそのあたりは情報としてそういう意見があつたということを伝えておく。そういうふうに活用していただけるのが一番いいのではないかと私は思うが、事業主体というものがある。

委員長
三上

他に質疑はあるか。

まちなかの通行量という部分で気になるので質疑するが、この通行量というのはトータルで考えるのではなく、例えば高林デパートから駅前までの部分では

長瀬課長 どうなのか、あるいは大通り商店街の部分ではどうなのかということで見えないと、結局市立病院が入っているから、あるいは図書館が来たからと言って、回遊性ということを考えると恐らくバスや車で来て行ってしまう。だからこの部分部分の個別で通行量がどうなのかということを考えていかないとトータルで考えてしまうとふえているとなってしまうので、そういうようなことを今後考えていかなければならないけれども、どのように思っているか伺う。そして実際、個別で見た場合はどうなのかということも伺う。

現在調査地点は、春は6地点、秋は5地点ということで設けている。再開発ビル前、高林デパート前、北門信用金庫前、中川かなもの前、J Aたきかわ前である。春については駅舎のほうでもとり行っている。この5点について分析していて、昨年とことしを比較して昨年大通りのほうが少なかったが、ことしの調査をすると病院が開院したせいかな本町、J A前とか中川かなもの前の通りがふえている。一方、通学のこともあり今回の春の場合は駅前再開発ビル前の高林デパートの前が減っているという状況である。これについてはちょうど高体連と重なったこともあったが、そういった中で分析をしているところである。晴れた日には1万人くらいの通行量があり、雨が降ると6,000人くらいという中で分析を行っている。今後そういった形でも情報提供を含めてさせていただければと思っている。

委員 長 他に質疑はあるか。(なし)(3)は報告済みとする。(4)について説明願う。
(4) 高校生のための就職支援セミナーの開催結果について
 (別紙資料に基づき説明する。)

青木主査 説明が終わった。質疑はあるか。
 委員 長 参加校が2校だったのは何か限定されたのか伺う。
 三 上 今回市内の高校3校の就職希望者全員に案内をし、中空知管内の高校には滝川市から通学している就職希望者に対して学校を通じてセミナーの案内をした。ところが滝川西高校については平日のセミナー出席に関する時間については欠席扱いとはならないが、他の高校については欠席扱いとなってしまうため、学校の先生からはそれぞれに案内はしていただいたものの、生徒の判断により、参加がなかったというのが結果としてある。この点については次年度に向けて再度学校との調整、あるいは平日の開催がいいのか土日の開催がいいのか、または1回だけではなく2回がいいのかなども含めて検討していきたいと考えている。

委員 長 他に質疑はあるか。(なし)(4)は報告済みとする。(5)について説明願う。
(5) スカイスportsイベント「サマースカifesta 2011」の開催結果について
 (別紙資料に基づき説明する。)

長瀬課長 説明が終わった。質疑はあるか。
 委員 長 毎度このようなイベントがあるときに、最近は市内外の集客はどうだったのか
 窪之内 ということを調べていたと思うが、市内、中空知管内という形で調べていけば伺う。

長瀬課長 実際会場でのパンフレットの配付はあるが、そのときにアンケートはとっていない。このあたりも含めて検討していきたい。

委員 長 他に質疑はあるか。(なし)(5)は報告済みとする。(6)について説明願う。
(6) 「食によるまちづくりフォーラム2011」の開催について

浦川室長
委 員 長
三 上

(別紙資料に基づき説明する。)

説明が終わった。質疑はあるか。

① フォーラム開催に当たって、事業費は市から出て、活性協議会から出ていると思うが、どのくらいかかるのか伺う。

② 今現在何人くらい参加できる見込みなのか伺う。

浦川室長

① 事業費については全額協議会から支出しているがまだ集約はしていない。ホテルの会場の借り上げ料と、思ったよりかかっていると思うのが食材をお願いしているので、これが30、40万円くらいになりそうな見込みを立てている。あとパネリストの皆さんには少額の謝礼としてわずかではあるが図書券をお願いしている。それ以外で特に予定しているものはない。

② 会場としては100名から150名くらい入れるようなところをセットしていて、既に申し込みが100名くらい来ているのできょういっぱいでもう少しふえたらいいと思っている。

三 上

① 事業がどのくらいかかるかまだ把握されていないと思うが、なぜ出村さんでなければいけないのか。東京から来ていただいてというよりももっと道内あるいは空知管内で食によるまちづくりという部分について、話のできる人はいっぱいいるのではないかと思う。なぜ出村さんでなくてはならないのか説明願う。

浦川室長

① 今回1弾目として食によるまちづくりフォーラム 2011 というのを開催する。それから9月20日で日程を組んでいるが第2弾として観光に関する講演会を開きたいと思っている。それを踏まえて11月から滝川観光塾という仮称であるが観光関連産業等従事者、あるいは市民ボランティアの方を集めた観光の勉強会を開催してもう少し観光人材育成の底上げを図りたいというねらいがある。その第1弾として今回フォーラムを開催したいということで、出村アドバイザーでなければならない理由としては、アドバイザーの一つの仕事であるということとアドバイザーで謝礼等をお支払いしているので、これに関して特に旅費や謝礼等は発生しない。通常の報償費の中で観光塾もすべてやっているのだからこれに関しては発生しない。逆に言うと、新たに道内のどこかの大学の先生にお願いするとなれば新たに経費がかかってしまい、それを協議会のほうで負担できるほど余裕がないという状況なのでアドバイザーにお願いするということにしている。

委 員 長

他に質疑はあるか。(なし)(6)は報告済みとする。(7)について説明願う。

(7) 滝川駅前再開発ビル活性化ビジョン策定事業の進捗状況について

加地副主幹
委 員 長
窪 之 内

(別紙資料に基づき説明する。)

説明が終わった。質疑はあるか。

① ビジョン策定に係る外部検討組織をそれぞれの専門分野から出したということだが、こういう方たちの報酬について伺う。

② まちづくりということで2名出されているが、今回も女性のメンバーがだれもいない。先ほどアンケートの6割は女性だったということだが、これからまちづくりを進めていくとき、この駅前再開発ビルの活性化のビジョンづくりになぜ高齢者や女性の声を反映させようという視点がないのか不思議に思う。そういう点でこういう人に限定して公募もされていないし、これが決している組織だと私は思わないがその金融の問題などいろんな問題があるので、そういう人たちが入るということを否定するわけでもないし、必要なことであると思

うが、市民が納得するようなものをつくっていくという観点であればもう少し違った視点で人材をこの中に入れるべきだったと考えるが、そういった検討はしたのかどうか伺う。

③ アンケートの取り方であるが、例えば全面的に再生したほうが良いと回答された方のうち全面的にするとどういったお金がどれくらいかかるかということを示していないアンケートだと思う。これが滝川市にとってどれくらいの税金をつぎ込まなくてはならないのか、そういった見通しが無いまま行ったアンケートというのは中途半端だと思う。駅西の開発の準備説明会をやったときはたしか金額的なものを示して地域別懇談会をやった記憶がある。何十億円もかけてそうしたほうが良いのか、数億円かけて改築したほうが良いのかというのは、財政的な面も見ないと市民の気持ちは変わってくるのではないと思う。スケジュールを見ると今回のアンケートだけで、またはコンサルに出して絵ができるような気がしてしまう。滞納の問題を含めて議会でもずいぶんもまなくてはならない問題があるというふうに思っている。これは中活が25年度までということに急いでいるということなのか。急いでどうするかということを出したいということに進めているというふうに考えていいのかどうか伺う。

① 非常勤職員に伴う要領、要綱があるのでそれに準拠した形で設定させていただいている。中には辞退される方もいる。それについては辞退ということに申し出をいただき、支払いはしていないという状況にしている。

② 専門分野である程度絞らせていただいた部分が正直なところある。その中で女性の意見、高齢者の意見という部分が欠落するのではないかとこのところの補完という形では、中心市街地活性化協議会の中に老人クラブの方、消費者協会の方々も入っているので、そういった方々の意見も当然伺いながら、その中でできたものをこの検討会議の中でも出していくというようなことでの意見反映をしていきたいと考えている。そういったこともあって今回の選定の部分では一定程度専門分野に絞った中で、表現が適切かわからないがたまたま男性の方ばかりになったということになる。まちづくりが2名ということで、谷口副委員長についてはスマイルビルの地下1階、たきかわホールなどの指定管理や事業をNPO法人としてされている。当然ビルの状況、現状においての内容を熟知されているという部分と、NPO法人という位置づけの団体という部分を加味させていただいた。神部委員については、青年会議所ということで若手の意見をいただきたいという中での選定と職業柄高齢者と接する仕事ということもあり、街なかでの高齢者の部分、経営ノウハウだとかというところを加味したいというところでの選定になっている。

③ P4、スマイルビルの今後についてということで全面的に再生したほうが良いかという点でお金を示した設問にはなっていない。ビジョンの中ではあそこを改修するのに幾らくらいかかるかという部分は聞き取り調査の中で今現在進めている。当然壊せば幾らになるかという部分も試算させていただいている。そういった部分も加味しながら最終結論を導き出すような形にはなるが、ゼロベースで一般市民の方に駅前地区としてお金を度外視してでもどういう位置づけが必要かという意味合いも聞きたいという部分もあり、お金を示した上で聞くことが一番適切かもしれないが、今現在ビルの所有者は民間の方々、一部滝川市としても所有権を持っているところもあるが、滝川市として今後どうしていくかという部分もあるので人様の今持っている部分も踏まえながらそれを

改修するのにどれくらいかかるかというのは時期尚早という部分もあり、一定程度ゼロベースの中での意見を賜りたいという位置づけでアンケートを実施したという経過になっている。中活期間が迫っているから急いでいるのではないかということだが、正直、仮に滝川市がビルについて何か事業を起こしていくということになってくれば当然補助金なり交付金なりという部分で財源を求めていきたい部分が出てくる。そうなったときに大きな役割を担っているのが中活の認定期間というものが大きなウエートを占めていくだろうと認識している。そういった点で当然今のビルの経営状況等もこの作業と並行しながらビル側との情報の交換は行っている。そういった部分を踏まえながら廃墟化させない、あそこにバリケードがされ、だれも立ち入ることができなくなって滝川の駅前は何もないというようなことにならないような形の手法を取っていかなくてはならないだろうと考えている。そういった点で早急に手だてを打っていかないといけないという考え方である。そして財源を見つけていかなくてはならないという部分での中活期間のエンド切り、これについても今内閣府等との考え方がいろいろ示されているので、そういったところと協議をしながら延長ができるものかできないものなのかという部分も踏まえて検討していきたいと考えているが、現状のスケジュールとしてはこのような形で進めていきたいというのが私どもの考え方である。

窪之内

最大の管理者である再開発ビル管理組合との話を進めていると言っていたが、言わば人の持ち物である。そことの関係をビジョンづくりの関係などで今後どのように進めていくのか。参考意見として聞くのか、向こうの意向とかはどんなふうに反映させていくのか伺う。

千田参事

ビルの経営状況がどうなっているのかという状況と再開発ビルがどうしてできたか、当時市が誘導してやったと言われている再開発事業の経緯、経過がだれもわからない、過去の人に聞いてもなかなか難しいという中で、当時のコンサルを含めて経緯、経過、どういうふうに進めているかという部分を今打ち合わせさせていただいている。行政主導でやったという話もあるし、当時5人も6人も市の職員がやったので確かに行政主導だったのだろうというふうに考えている。再開発ビルの収支状況、再開発ビル株式会社、駅前ビル管理会社、別会社がある。これを例えば連結決算にしたとしたら本当にどれだけの収益があってビルがこれから運営していけるのだろうかという部分まで踏み込んで協議をさせていただいている。ビルをどうしたいとかこうしたいというのではなく、ビルがこのままいったらどうなるだろうという部分は十分聞き取って進めていかなくてはならないだろうと思っている。ビル側としては非常に収支状況が厳しい中、先ほど専門家の先生にもという話も報告したが、税理士や弁護士にもそういうところをよく見ていただきながら進めていっている。ただ、やみくもに再開発ビルが市に助けてくれと言っているわけではない。もう本当に厳しい状況の中で進めて、クローズしたらたぶん廃墟化するような状況にあるのではないかと考えている。そういう意味では一日でも早く方向性を決めていきたいというのが私どもの考えである。

委員長
三上

他に質疑はあるか。

スマイルビルの活性化ビジョンの策定の前にスマイルビルにかかわる税の滞納部分をどうするか提案してもらわないことにはこのビジョン自体すばらしくなったとしても議会としては受け入れられないと思う。その点をどう考えている

のか伺う。

千田参事

税の関係も税務課サイドでいろいろ考えていると思う。ただ私どもとしてはスマイルビルのほうから納付書等々について幾らあるか、選挙戦のときに1億6,000万円という話があったけれども、その内訳等々を今分析しているところである。それで本当に平成15年に西友が撤退したときの収支状況と16年度以降再開発ビルとして「く・る・る」をつくったり、たきかわホールをつくったり、ダイソーに入っていたいたりした部分の中で収支状況がどうだったのかという部分を踏まえて税が本当に払えたのか、払いたくても払えなかったのかという部分を専門家の先生にも見ていただかなくてはならないし、私どもは税を取れたのに取らなかったのかといういろんな部分を今検討して専門家の先生を入れて、ある程度の方向性が出たら報告を税務課なりの所管からしたいと思う。私どもとしては何としても残していきたいというふうに考えているが、そのあたりも滝川市としての方向性を導いて報告させていただきたい。

三 上
委員 長

その報告が先である。

他に質疑はあるか。(なし)(7)は報告済みとする。ここで休憩とする。

休 憩 15:31

再 開 15:40

委員 長

休憩前に引き続き会議を再開する。(8)について説明願う。

(8) 新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について

若山部長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

① P72、農業開発公社についてであるが、計画の達成目的という観点から見ると結果的には損失補償という事態になったわけなので、このことについてどこかで触れておくべきだと思う。その考えについて伺う。

② P73、滝川グリーンズであるが、経営改善策が効果を上げてくることができるといふ経営改善策が示されているというふうに考えていいのか。23年度に効果があらわれてくるような数字が出てくるといふ計画になっているのかどうかを伺う。

若山部長

① P72 中で第3四半期ということで11月25日損失補償を実行し、一応掲載は22年度の行動計画の中の実績で掲載しているところである。また、特記事項の中で22年度の10月29日株主総会において解散決議、23年6月10日に清算終了ということで掲載させていただいている。これ以上ということであれば、今のところそこら辺までの考えは持ち合わせていない。

② 現状、今計画に対して7月までの経営実績は届いていないが、6月までの経営実績としては計画に対してはある程度目標達成ぐらいの数字である。その中には自分たちでできることはやろうということと管理における削減や、営業における入浴客、言ってみれば回数券等ではなく単券600円のお客さんがふえているという形になっているが、温泉は夏が勝負で冬になるとどうしても落ち込んでくるので、秋口までしっかりと見続けていって効果を上げていければと考えている。

窪之内

① 第3四半期のところに11月29日損失補償実行というふうには書いてあるが、余りにも事務的である。そうした損失補償債務の軽減を図る結果が7,200万円を超す損失補償に至ったわけだから、ただ書けばよいというものではないと思う。やはりこういう形になったことで反省点というか、至ったことが一言

でもあってよいと思う。これは結果だからこれでいいという考えなのかどうか伺う。

② 結局、経営改善計画をやってきた中で進んでくると今回の経営改善計画が6月までは目標達成の数字だと言っているが、幾ら目標を達成しても累積赤字が残っていて、借り入れも残っている。これを本当に何年かのうちに解消するという計画になっているのかどうか伺う。

若山部長

① 農業開発公社の反省点について新滝川市活力再生プランにそういうところを載せるものかどうかということを行政経営課とも打ち合わせしないと私たち独自の判断ではというところであり、市民の皆様には8月1日付の広報にこれでいいのかどうかということは別問題としても掲載させていただくように努力しているところである。行政経営課とそこら辺は詰めたと思うが、私の考えではこの再生プランの中では現状という形でとめておくべきかという気がする。行政経営課と相談させていただく。

② 何カ年でどう削るというよりもせっぱ詰まった今この時をどうするかということに主力を置いているところである。その中で貸付金を返していくためにやはり冬季の利益を上げなければいけないということで、目標を497万9,000円にしている。先ほど委員が言われたように6月現在ではそうだが今後どうなるかというのは心配な部分である。ただ現状でいけば約500万円ほどの利益を上げるという形で今グリーンズの社員自体が意識改革なりをして大変頑張っているところであるので、私たちもそれについて支援していきたいという考えを持っている。

委員長
副委員長

他に質疑はあるか。

経理の中身がめちゃくちゃだったという報告を受けている。第三セクターすべてがそうだと思うが、中間報告では何とかなるという報告ばかりで、どれを見ても結果は努力しているけれどもふたを開いたらいいものが何もないと。採算が取ればベターであるが公的でやっていたら赤字が出るのは当たり前のことである。経理責任者を含めて、役所の方が出向していたのか雇ったのかは定かではないが、経営管理能力のない方がやられていたのかと思う。グリーンズの関係で1年間に500万円くらいの赤字だと思うが、これくらいの赤字だと何とかなるはずである。総売上の中の500万円くらいであれば何とでも努力できるはずである。やはり半分公という部分で経営を担当されている方々が甘えているような気がするのだけれども、人件費を含めて経営の中身をもう一つ見直してこちらから申し上げるべきことは申し上げる時期に来ているのではないかと思う。やはり経営の中の効率部分を考えたときにもう一つ踏み込んだ形の中で経営指導等も含めてやっていく必要がある。今のまま幾ら言っても赤字がふえるのではないかと思う。その辺についての考え方を伺う。

若山部長

ご存じのように入浴客数が温泉施設は全道的に減少という傾向の中でいかにして歯どめをかけるかということでは全道の公的な温泉施設の中では頑張っているという位置づけをしている。減少をとめながら一生懸命やった中でも500万円という赤字が出てしまったという結果である。委員の言われたように農政部の中からもグリーンズに対して役員が出ている。それも常駐という形はとれない。その中で常に向こうに連絡を入れ報告をもらいながら向こうに行って経営を支援して口を酸っぱくして言っているところである。私たちも経営のプロかといったらなかなかそこまではいけないところではないが、努力をして、結果が

出ないと努力も無になるところではあるが何とか結果を残そうとしてやっている。また、人件費的なものもグリーンズの社員は給料も10年勤めていてもなかなか上がっていないというのが現状である。その中で彼らも少しでも収益を上げればという形で頑張っているの、委員の言われたことを十分考えながら今後また指導なり一緒にやっていきたいと思っている。

委員 長

他に質疑はあるか。(なし)(8)は報告済みとする。(9)について説明願う。

(9) 株式会社滝川グリーンズ定時株主総会の開催結果について

多田参事

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

代表取締役になった専務の名前と代表取締役の役員報酬額について伺う。

多田参事

代表取締役社長と代表取締役専務2名が代表権を持つような形に変えた。今までは社長だけが代表権を持っていたが、今度は社長と専務の2名が代表権を持つように変わったということである。専務については岩田さんが就任している。限度額は500万円である。報酬額自体は今までと変わっていない。

委員 長

他に質疑はあるか。(なし)(9)は報告済みとする。(10)について説明願う。

(10) 株式会社滝川農業開発公社株主総会の開催結果について

多田参事

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。(なし)(10)については報告済みとする。所管入れかえのため若干休憩する。

休 憩 16:10

再 開 16:15

委員 長

休憩前に引き続き会議を再開する。(11)について説明願う。

(11) 新滝川市活力再生プラン平成22年度実績報告について

大平部長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。(なし)(11)は報告済みとする。(12)について説明願う。

(12) 建設部工事発注状況について

深瀬課長

(別紙資料に基づき説明する。)

三谷技監

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長

説明が終わった。質疑はあるか。

小 野

土木課の発注状況の備考欄に道路23件、公園5件とあるが、この5件の中の発注した分と未発注の分があると思うが、この5件の内訳を伺う。

深瀬課長

発注した分については国道38号線をまたいで平和公園という公園があるが、その部分の土地、家屋を寄附いただいた。その解体工事と解体後の整備の2件である。発注していない部分については黄金町、江陵中学校の東側の公営住宅のところであるが、そこに黄金町児童遊園という公園をつくる予定である。その本体工事とそれに付帯する工事の2件。もう一つ発注していないのが、都市公園の安全対策であるが、3カ所の公園について木製の遊具と緊急に改修しなければならない部分についての発注ということで総計5件のうち2件を発注。3件が未発注ということである。

委員 長

他に質疑はあるか。

三 上

① 今回選挙があり、例年と比べて発注がおくれていると感じるがどうか伺う。

② 発注率が100パーセントになる時期の見込みはどれくらいか伺う。

深瀬課長

① 委員の言われるとおりのことし当初予算で骨格を決め6月補正ということも

あったので昨年度に比べて若干発注がおくれている。

② 今後については8月に11件、額にすると1億4,000万円ほど、9月に7件、約1億2,000万円ほど発注し完了する予定である。

委員長

他に質疑あるか。(なし) (12) は報告済みとする。(13) について説明願う。

(13) 深沢川の治水に係る現況調査検討委託業務について

高瀬室長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

① 市から道の河川に昇格できるためには、現況調査だけではなく、基準のようなものがあるのかどうかを伺う。

② ラウネ川に入る付近を含めて今まで被害があったということは知っているし、改修したことも知っているが、この8キロ区間の中でこれまでこういったところが改修が必要な箇所または水があふれたりしているところなのかを伺う。

湯浅副主幹

① 普通河川を道河川に昇格する基準についてであるが、基本的には数値的な基準はないが、甚大な被害がある場合については北海道で事業を行うということになっている。そのためにもその被害額を明確にしていきたい。特に既に道費河川として熊穴川の整備は終わっているし、今現在ラウネ川も整備中である。そういった河川よりは市街地に近いということが想定されるので被害額も大きいのではないかと思いますので、その具体的な数値を出して要望していきたいと考えている。

高瀬室長

② これまでこういったところが被害があったかということだが、図面で言えばラウネ川のはき口部分にはブロックとかがあがあるが、災害復旧という形で修正している。はき口から少し右側のほうにくの字に曲がっている部分もよく崩壊したりしている。国道の横断部分であるとかJRの部分も非常に狭窄している部分であるので、潜在的な危険箇所ということで危惧しているところでもある。それから滝の川の直線の水田地帯については今事業中であるが道営で土地改良の一貫として排水事業をやっているが、ここにおいては水田全体が冠水するなどもあったが、道営でここの部分については何とか今解消していこうという事業である。

委員長

他に質疑はあるか。(なし) 私のほうから質疑させていただく。業務概要を見ると委託先というのはどういう業種なのか伺う。

高瀬室長

今のところは災害も含めて広範な範囲があるので道内のコンサルタント、こういう災害復旧にたけた経験のある基本的には地域限定という形になるかと思うが、石狩、もしくは上川までの範囲とした一つのコンサルタントに発注したいという考えをしている。

大平部長

この道費昇格は非常にハードルの高い要望であり、簡単になるとは思っていない。今回たまたま若干のアクションがあったのでスピードを持っていきたいというふうに思っているが、これはハードルがとても高く何年かかるかわからないという思いはある。相当な流用費もかかるということで滝川市としてはこの川を改修するのは不可能という判断から、何とか道費にしていきたいということで要望活動を強めて粘り強くやっていきたいという考えのもとで行っている。

委員長

他に質疑あるか。(なし) (13) は報告済みとする。

2. その他について

委員長

行政視察の日程等の話し合いを持ちたい。前回は希望の視察地などがあれば事

務局のほうへということでお伝えしたが、今のところはないということで、あれば早急に願います。日程に関してはできるだけ早く決めたいと思う。副委員長から10月10日以降ということで要望が出ているので10月の中旬ぐらいからと思うが、日程は17、18、19、20日かどうか。(よし) そのように決定する。3泊4日なので3カ所は行く。経済建設の所管の調査事項のところに行きたい。できれば経済、農政、建設、1つずつあれば一番よいと思う。

副委員長

農業の関係でいえば1掛ける2掛ける3の6次産業の関係で全国で6カ所ほど補助金をもらっているところがあると思う。それを調べてもらい、農業でつくってから最終エンドユーザーの消費者に渡るまで、国で補助金が出ているはずである。しかも法人ではなく個人に出るという予算である。そういったところで町おこしに使っている方がいるので、もしそういうモデルとなるところがあれば農業を最終的にまちづくりに利用する方がいると思うのでそういうところを見れば加えていただきたいと思う。

委員長
三 上

ほかに要望はあるか。

課題であった企業誘致はなかなか進まないが自治体で企業誘致に成功しているところが関東近辺にあるはずである。その辺がどうかと思っている。

委員長

ほかにもあれば事務局まで願います。

3. 次回委員会の日程について

委員長

次回委員会の日程については、正副委員長に一任願えるか。(よし) 以上をもって、第3回経済建設常任委員会を閉会する。

閉 会 16:40